

幻想的な雰囲気感動の声

沢田ろうそくまつり

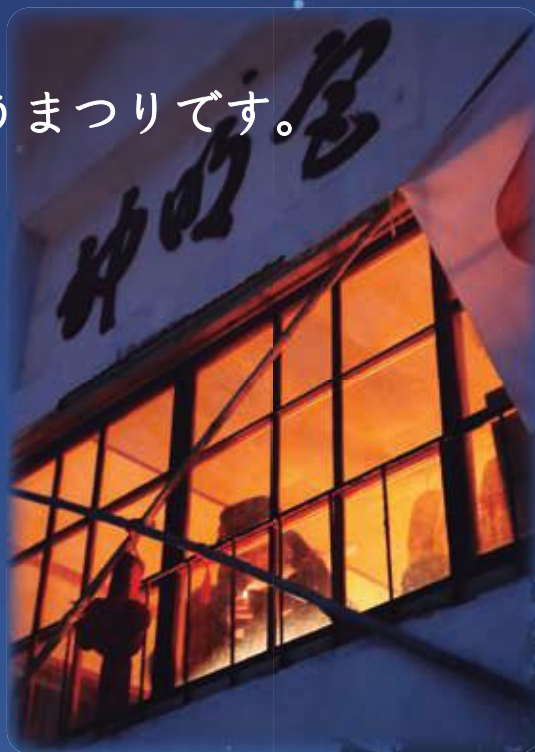
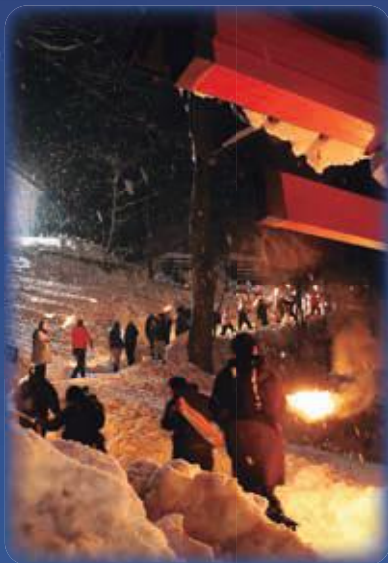


旧暦の小正月に行われる沢田ろうそくまつり。

沢田神明宮の「岩谷堂」と呼ばれるほこらの

岩肌にろうそくを灯し、

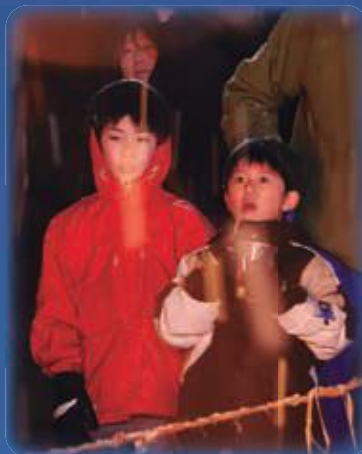
翌日のろうの垂れ具合で豊凶を占うまつりです。



沢田地区は旧相馬村の一番奥に位置し、戸数6戸17人の集落です。この地区で450年以上続く奇祭「沢田ろうそくまつり」。壇ノ浦の戦いで滅んだ平家の霊を供養したのが起源とされています。2021年から中止していましたが今年5年ぶりに開催されました。

参拝者は雪で作った参道をのぼり「岩谷堂」の中の岩肌にろうそくを立て、五穀豊穡や家内安全を願い手を合わせます。今年のテーマは「平穏」。開会のあいさつでまつり実行委員会の三上昇会長は「ここ数年、平穏がいかに尊いか考えさせられる出来事が多かった」と今年のテーマに込めた願いを述べました。

会場ではかがり火がたかれ、たいまつ行列や登山ばやし、岩木山商工会による出店で来場した約千人を迎えました。中でも沢田地区のおばあちゃん達が夏に収穫し塩漬けた山菜や、相馬ハンタークラブによるマタギ汁が人気でした。マタギ汁は熊肉5頭分の肉を前日から煮込んだもので、ハンタークラブ会長の成田信一さんの自信作です。



気になるところの垂れ具合では、「農作物は平年並みだがやや劣るかもしれない。気象に関しては要注意である。遅霜にも風にも注意が必要でしょう」という結果が出たといわれています。

相馬地域が一丸となり、沢田集落の伝統を後世へと受け継いで、祭りは来年へと続いていきます。